

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 25 日現在

機関番号：21201

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20700642

研究課題名 (和文) ピア・アセスメントにおける他者評価能力の可視化ツールの開発

研究課題名 (英文) Development of an evaluation ability visualization system for peer assessments

研究代表者

藤原康宏 (FUJIHARA YASUHIRO)

岩手県立大学・ソフトウェア情報学部・准教授

研究者番号：30305338

研究分野：教育工学

科研費の分科・細目：総合領域・教育工学

キーワード：教育工学, ピア・アセスメント, 教育評価, 可視化

1. 研究計画の概要

近年、学習者間で相互に学習成果物を評価させる試みが行われている。学習者が主体的に参加する学習形態において、学習者が評価に参画することは自然であり、評価結果を受け入れやすくする。そのため、学習者の内省を促し、知識の内化や深化を導き、学習意欲や学習動機を向上させ、より積極的に学習に取り組むことなどの効果が期待される。しかし、学習者間評価の前提の1つとして、学習者が他の学習者を評価する能力を持っていることがあげられるが、他者評価の能力については、これまであまり議論されてこなかった。本研究では、学習者の他者評価能力を可視化するツールや評価についてのコミュニケーションツールを開発することで、学習者の他者評価能力の向上に資することを目指す。

2. 研究の進捗状況

これまでに開発した個々の評価者の評価特性の補正方法をもとに、学習者の評価特性のモデル化を行った。以前は、評価特性パラメータをそのままフィードバックしてきたが、より学習者に分かりやすい指標、評価の改善のための指針をグラフィカルに分かりやすく表示する方法を提案し、それを実装したプロトタイプを開発した。

3. 現在までの達成度

1年目は、評価の安定性、差をつける度合い、評定の厳しさなど他者評価能力のモデル化を行った。2年目は、評価能力を、学習者に分かりやすく表示するためのインタフェースについての設計を行った。3年目は、システムのプロトタイプを作成した。

計画では、3年目終了時に、ユーザ評価の

完了を目指していたが、実装時に新たに考慮すべき課題を発見したため、ユーザ評価までは至っていない。

4. 今後の研究の推進方策

当初の計画にはなかった「学習者の評価者に対するトラスト」の観点からのシステム設計を追加したため、計画より若干の遅延が生じている。現在、これまでに開発したプロトタイプから、実験用のシステムを構築しており、順調に作業が進んでいる。今後、開発したシステムの評価を行い、計画通り、完了する見込みである。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 藤原康宏, 大西仁, 加藤浩: 継続的な学習者間評価を導入した情報教育の実践, 情報処理学会論文誌, Vol. 49, pp. 3428-3438, 2008年, 査読有

〔学会発表〕(計3件)

1. 藤原康宏, 西久保健太, 永岡慶三: ピアアセスメント支援システムを利用した紙媒体のレポートの相互評価の実践, 電子情報通信学会教育工学研究会, 2008年7月19日, 福島大学

2. 藤原康宏, 永岡慶三: 形成的評価としての学習者間レポート相互添削の実践, 教育システム情報学会第34回全国大会, 2009年8月19日, 名古屋大学

3. 藤原康宏, 永岡慶三: グループワークを取り入れた演習における学習者間レポート相互添削の実践, 電子情報通信学会教育工学研究会, 2010年11月26日, 東京工業大学